

13

富国生命ビル

HEAD OFFICE OF THE FUKOKU MUTUAL LIFE INSURANCE CO.

所在地——— 東京都千代田区内幸町 2-2-2
建築主——— 富国生命保険相互会社
設計者——— 清水建設株式会社
施工者——— 清水建設株式会社
竣工——— 昭和55年 1 月
Location——— Tokyo
Owner——— Fukoku Mutual Life Insurance Co.
Design——— Shimizu Construction Co., Ltd.
Contractor——— Shimizu Construction Co., Ltd.
Date of Completion—— January, 1980

概要

建築概要

敷地面積 7,453㎡
建築面積 2,189㎡
延床面積 89,784㎡
構造規模 鉄骨鉄筋コンクリート造, 鉄筋コンクリート造
地下5階, 地上29階, 塔屋1階

仕上げ概要

外装 屋根:アスファルト防水, コンクリート
押え 外壁:アルミプレート電解2次着色 建
具:1階主要部ブロンズ, その他ステンレス・
アルミ
内装 玄関ホール 床:外国産大理石 壁:ブ
ロンズパネル, 硫化いぶし 天井:キャストア
ルミ/事務室 床:カーペット敷込み 壁:化
粧銅板 天井:岩綿吸音板/地下店舗 床:長
尺塩化ビニールシート 壁:磁器タイル 天井
:プラスターボードVP

設備概要

衛生 給水:都上水引込み, 上水・雑用水(将
来中水)2系統, 高・中・低層ゾーン別給水,
重力式 給湯:高・中・低層ゾーン別給湯(洗
面所給湯室へ), 飲料は局所 排水:系統別排
水, 都下水本管へ放流, 将来雑排水は中水水源
に使用
空調 方式:内部は隔階に空調機を置く単一ダ
クト方式, 外部は4管式2重コイル型ファンコ
イルユニット 熱源:街区共通地域, 熱源供給
プラントより冷水・蒸気を受給
昇降機 エレベーター21基 エスカレーター4基
消火 スプリンクラー, 泡消火, ハロンガス消
火
駐車 261台

足立 孝 Takashi Adachi
松村 慶三 Keizo Matsumura
田村 真二 Shinji Tamura

この敷地は皇居前広場から日比谷公園へと続く水と緑に恵まれた都内最高の立地とあってよい。建築主からの与条件として、富国生命保険相互会社の本社ビルにふさわしい格調高く、しかも将来にわたって見劣りしないビルであること、優れた環境にマッチし、かつ経済性に富むビルであることなどが示された。

もともとこの敷地の属する街区は、昭和50年7月、日本プレスセンタービル、現在施工中の日比谷国際ビル、計画中の三井物産ビルとともに四つのビルをふくむ地域が特定街区として都市計画決定を受けており、その時点で各ビルの容積および高さは決定され、50%を超える公開空地が確保されているわけであるが、この空地をいかに街区のオープンスペースとして整備し、これに四つのビルが有機的に結ばれるだけでなく、都心のオアシスとしての使命を果たすべくいかに計画するかが大きな課題であったと思われる。

富国生命ビルは地下5階、地上29階、高

さ120mの高層ビルである。2階以上の上層階をオフィス・スペースに、中2階以下はエントランスホール、商店街、駐車場、機械室などで構成されている。

オフィス部分の平面計画はオフィスレイアウトのしやすい内法モジュール3.1mを採用し、中央一文字型のコアを狭んで、奥行4モジュール(12.4m)、間口18モジュール(55.8m)の無柱空間の使いやすい事務室スペースを確保しているが、このモジュールとコア部分の納まりおよび外周4面の均一な窓割りは関連が深く、設計者が最も苦しんだところであろう。内縁線の設定による外観のプロポーション、外装材としてシルバーメタリックのカーテンウォールの採用と行き届いたディテールデザインは全体を格調高く高品質のものに仕上げている。

日比谷公園側から入るエントランスホールは、このビルの主玄関であり、このビルの象徴であるともいえよう。1階の最も好条件の場所に、高い天井のゆったりしたオープン空間を提供しているのは、このビ

buildings while allowing it to perform as an urban oasis.

The Fukoku Building (120 meters tall) has 5 basements and 29 stories. All floors from the second up house office spaces. Shops, commercial facilities, entrance hall, parking lots, and machinery rooms are located on the mezzanine, first floor, and basement levels. Office spaces, which flank a central rectilinear core, are based on a 3.1-meter module for layout convenience. Each space is 4 modules (12.4 meters) deep and 18 modules (55.8 meters) wide. Working out intimate relations among module, core, and balanced window placement on all four sides caused the architect maximum difficulty. Careful attention to inner framing and window proportions plus the silver metallic materials of the curtain walls assure a dignified exterior. One of the secrets of the

ルの成功の大きな要素であろう。

外部空間の計画のうち、現在日本プレスセンタービルとの間に設けられているアッパープラザおよび日比谷公園側のサンクンモールは完成し、近日日比谷国際ビル(施工中)との間に完成する予定のローワープラザがこれに加わると、この外部空間は都内でも出色の都市景観を備えるであろうことは想像できる。

このローワープラザと富国生命ビルの1階・地階における接触が、このビルの最終的な評価にもつながるといえよう。

紙面の都合で詳述できないが、施工面においても超軟弱地盤に対応するための新技術が駆使され、大きな成果をあげている。施主・設計者・施工者の極めて緊密な連携と真摯な協力の姿勢がこのビルの立派な完成につながったものといえよう。以上の観点からBCS賞にふさわしい作品として推奨したい。

building's architectural success, the pleasing, high ceilinged open space at the first-floor entrance hall, is reached primarily from the side of the site near Hibiya Park.

The surrounding exterior spaces, when complete, will produce one of the most attractive ensembles of the kind in the city. At present, between the Fukoku building and the Japan Press Center is an upper plaza. On the Hibiya Park side is a sunken mall. When the Hibiya International Building is finished, it will join with the Fukoku building by means of a lower plaza. Cooperation among owner, designer, and contractor was especially important in this project since the extremely soft ground base necessitated full use of the latest building technology.





メインエントランス Main entrance.

西側アッパープラザ Upper plaza on the west side.



サンクンモール Sunken mall.



皇居堀よりみる View from the north.

81年BCS作品集 4所



エントランスホール Entrance hall.



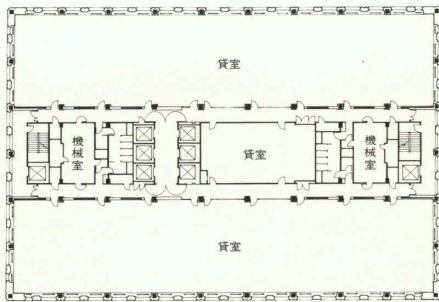
エレベーターホール Elevator hall.



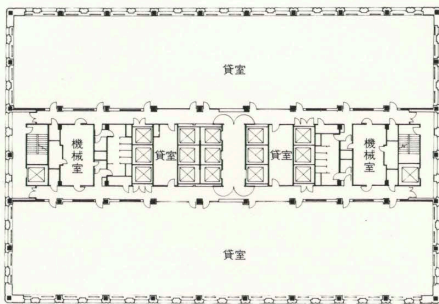
事務室 Office room.



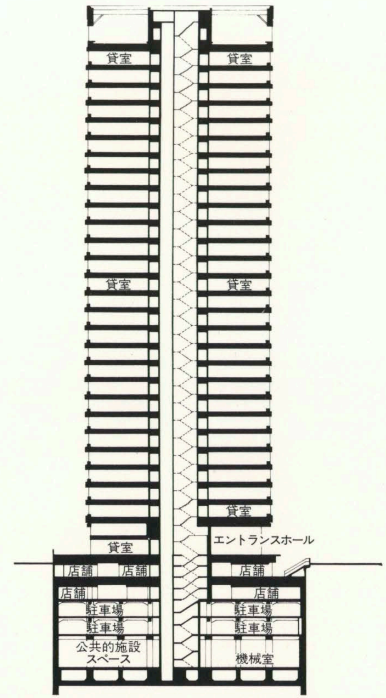
28階サロン Saloon.



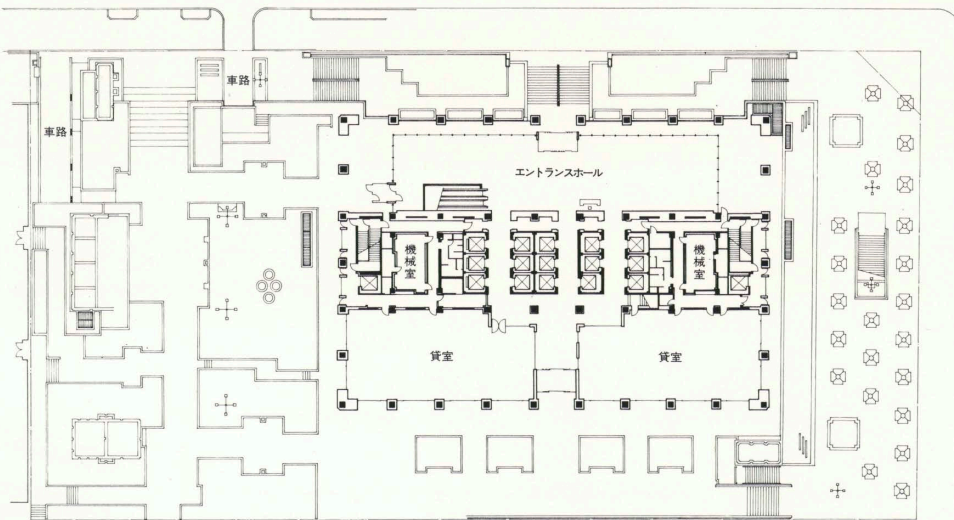
26階平面



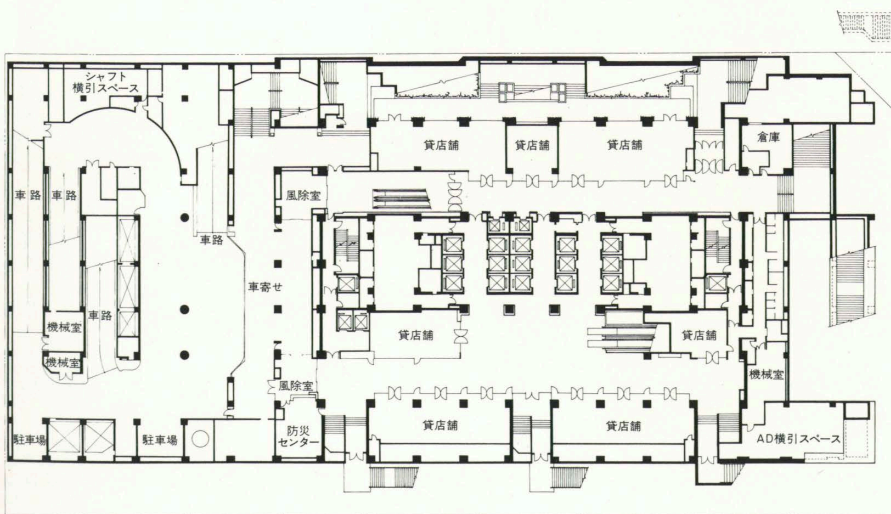
6階平面



断面



1階平面



地下1階平面